

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、高校生の生活意識と外国への関心をテーマとしている。現在の高校生の日常生活や学校生活における意識や自己認識、そして将来の展望などの把握を目的としている。また、日本では、若者の内向き志向が強くなっているともいわれている。その実態はどうなっているのだろうか。本調査では高校生の外国への関心や留学意識などについても取り上げ、内向き・外向きの志向性についても調べることにした。

調査は質問紙を用いた集合調査とし、日本、アメリカ、中国、韓国の4カ国で同時に実施した。高校生の生活や留学についての意識を4カ国で比較することに加え、他の国に対する相互のイメージのあり方や関心度も調査の対象とした。また、一部の内容は2005年の調査とほぼ同一とし、経年的な変化も見られるよう企画した。

2 調査内容

- ・日常生活における関心事
- ・大事にしていること
- ・自己評価
- ・いまの自分となりたい自分
- ・生活満足感
- ・自国への意識
- ・将来の目標と受けたい教育程度
- ・外国への関心
- ・日米中韓4カ国とのかかわり
- ・日米中韓4カ国のイメージ
- ・留学願望の有無
- ・留学したくない理由
- ・留学したい理由
- ・留学したい国とその理由
- ・留学の目的、留学期間、留学の準備、留学情報の収集など

3 調査方法

調査の実施時期、調査対象などは次のとおりである。

	日本	アメリカ	中国	韓国
実施時期	2011年9～11月	2011年9～11月	2011年9～11月	2011年6～7月
調査学校の数	21校(普通科)	12校(普通科)	30校(普通科)	66校(普通科)
調査地域	埼玉県 東京都 神奈川県 石川県 静岡県 滋賀県 大阪府 兵庫県 岡山県 福岡県 佐賀県 宮崎県	Charlotte, North Carolina Kansas City, Kansas Chicago, Illinois Thousand Oaks, California Indianapolis, Indiana Idaho Falls, Idaho Liberty, Missouri Eugene, Oregon Gallup, New Mexico Tulsa, Oklahoma Nashville, Tennessee Great Falls, Montana	北京市 上海市 西安市 広州市 大連市	ソウル市、釜山市 大邱市、仁川市 光州市、大田市 蔚山市、京畿道 江原道、濟州道 忠清北道 忠清南道 全羅北道 全羅南道 慶尚北道 慶尚南道
調査方法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法
サンプル数	2458票	1032票	2235票	2292票

4 調査対象者の基本属性

性別

	日本	米国	中国	韓国
男	49.2	46.8	49.4	49.5
女	50.6	52.9	50.4	50.5
無回答	0.2	0.3	0.1	0.0
実数(人)	2458	1032	2235	2292

学年

	日本	米国	中国	韓国
高1	35.9	22.5	33.3	33.9
高2	38.4	27.9	33.1	32.3
高3	25.5	49.4	33.5	33.8
無回答	0.1	0.2	0.1	0.0

5 調査の協力機関

中国青少年研究センター、韓国青少年政策研究院

6 調査結果の要約

I 生活意識

1. 関心事 ⇒P11～

●日本は「大衆文化」「クラブ活動」「流行」への関心が高いが、「家族」、「勉強や成績」、そして「友人関係」は、4カ国中最も低かった。また、米国は「進路」「家族」「勉強や成績」「友人関係」、中国は「コンピューターやインターネット」「国」「地域」、韓国は「容姿・ダイエット」への関心がそれぞれ他の国と比べて相対的に高い。

●2005年調査と比較してみると、日本の高校生はほぼすべての項目で関心の度合いが低下している。韓国も同じ傾向である。米国は日本の高校生とは対照的に、ほとんどすべての項目で関心の度合いが高まっている。特に、「勉強と成績」「お金」「携帯電話やメール」でその伸びが著しい。中国の高校生の関心が高くなったのは、「大衆文化」「携帯電話やメール」「流行」である。

2. 大事にしていること ⇒P17～

●すべての項目で日本の高校生の比率が低い。特に、「家族が仲良くする」「先生に理解される」「親に自分をわかってもらう」の比率は、米中韓に比して著しく低い。選択率が相対的に高かったのは、「思い切り遊ぶ」「競技で活躍する」の2項目のみで、いずれも4カ国中2位であった。

●米国の高校生は、「友人関係がうまくいく」「異性と仲良くできる」「競技で活躍する」で際だって高い。中国では、「親に自分をわかってもらう」「先生に理解される」が1位であり、「希望の大学に入学」も韓国に並ぶ高率である。韓国の高校生は、「希望の大学に入学」「思い切り遊ぶ」「自分の道を自分で決める」そして「趣味を生かす」でいずれも4カ国中1位である。

3. 自己認識

① 自己評価 ⇒P20～

●ポジティブな項目全般で日本の高校生の肯定率が低い。特に、自分を価値ある人間と思う自尊心については、米中韓の半分以下の水準である。それ以外の積極性や人前で意見をいうといった性格に関しても、他国とは大きな開きがある。

●中国の高校生は、自分を「価値ある人間」、「人前で自分の意見をはっきり言える」と自己評価している。「価値ある人間」に関しては、韓国の高校生も中国と並び最上位にある。米国の高校生の特徴は、「他人と違うこと」の肯定率が著しく高い。

●ネガティブな性格項目について、日本は「自分はダメな人間だ」「自分の将来に不安を感じている」そして「人並みの生活ができれば十分だ」といった項目での比率が際立って高い。

●以前実施した 1980 年および 2002 年の調査結果と比較して、日本の高校生は「積極的な人間」「価値のある人間」と自己評価する比率が高くなっているが、同時に、「現状を変えようとするより、そのまま受入れる方が楽に暮らせる」「自分はダメな人間だ」という肯定率も高くなっている。特に「現状をそのまま受けるほうがいい」という日本高校生が 1980 年 24.7%、2002 年 42.1%、2011 年の今回では 56.7%（「よくあてはまる」+「まああてはまる」）と著しく増えてきた。一方、「ダメな人間」について「よくあてはまる」と答えた日本高校生が 1980 年の 12.9%に対し、2002 年 30.4%、2011 年 36.0%と、ほぼ 3 倍水準にまで大きく増加した。

② いまの自分のタイプ ⇒P24～

●日本の高校生は、全般的に自己認識が否定的である。「勉強がよくできる」「友達を積極的に助ける」「クラスみんなに好かれる」「正義感の強い」「失敗を恐れず、未知のものに挑戦する」「決まりに従い、ルールをよく守る」「自分の意見をはっきり言う」「自立のできる」の肯定率が、いずれも 4 カ国中最も低かった。韓国も日本に次いで低い自己認識をしている。

●これに対し、米国の高校生は自主的、自発的な人間という自己認識が高い。「先生に好かれる」「自分の意見をはっきり言う」「失敗を恐れず、未知のものに挑戦する」「勉強がよくできる」そして「リーダーシップをとれる」の 5 項目が著しく高い。中国では、「きまりに従い、ルールをよく守る」「正義感の強い」「自分に課せられたことを確実にこなす」「クラスみんなに好かれる」で比率が高く、自らを律する人間という自己認識が高い。

③ になりたい自分のタイプ ⇒P26～

●「いまの自分」に対する自己認識で「自治的人間」に属する回答が少なかった米国では、「になりたい自分」で「自分に課せられたことを確実にこなす」が高い比率になり、「自発的人間」に属する回答が少なかった中国では、「になりたい自分」として「勉強がよくできる」「リーダーシップをとれる」が高い比率になっている。また、米国は、全体的に自己評価が高かった分、「になりたい自分」では全般に比率が低くなっている。

●日韓の高校生は、「になりたい自分」として米・中よりも多くの項目をあげている。特に日本の場合、自分の将来像として 10 項目中 7 項目で最も多い選択率を示している。

4. 生活満足感 ⇒P27～

●家庭生活、学校生活、友人関係、社会、自分自身に関して、総じて米中高校生の満足感が高く、日本、韓国のそれは低い水準にある。また、6年前と比較して、米中の伸びも著しい。それに対し、日韓は6年間の伸びが非常に小さく、自己満足感に関しては、逆に減少している。

5. 自国への意識 ⇒P30～

●日本の高校生は国との同一感の程度が低く、日本人としての誇りもそれほど強くない。ただし、日本で暮らしていることに満足をし、他の国に生まれたい気持ちが弱い。これとは対照的に、中国の高校生は自分と国との同一視の程度が高く、中国人としての誇りも強くもっているが、中国での暮らしに対する満足度が低く、他の国に生まれたい思いが強い。また、自国の経済状況の持続的発展や自国の危機に自分も力を尽くすことに関しては、中国の肯定率が突出していて、日本の肯定率の低さが目を引く。

●自分の国に対する誇りも、自分の国で暮らすことに対する満足度も高いのはアメリカの高校生である。

●韓国的高校生は韓国で暮らすことに対する満足感、他の3カ国と比べてきわめて低い。また、韓国人としての誇りも弱く、他の国に生まれたい願望が強い。

6. 将来への展望

① 将来の目標 ⇒P34～

●日本の高校生の将来への展望が弱い。「高い地位に就く」「社会に役立つ」「お金持ちになる」に関しては、非常に低い値である。

●米国の「社会に役立つ」「趣味を活かす」「円満な家庭」の比率は、他国を大きく引き離している。しかし、全体としては韓国、中国もほぼ米国の高校生に準ずる数値を示している。

② 将来達成したい学歴の水準 ⇒P37～

●将来達成したい学歴の水準については、「四年制大学まで」という回答は日本が最も多く、6割以上に達している。米国と中国では、修士や博士を目標に定めている者が多い。米中のほぼ半数、韓国の4人に1人が修士または博士までを望んでいる。日本の高校生は、12%程度に止まっている。

●2005年の調査と比較して、「修士まで」と「博士まで」を足し合わせた比率の増加をみると、韓国では1割弱伸長してきたが、日本では、それほど伸長していなかった。

Ⅱ 日米中韓4カ国のイメージ

1. 日米中韓4カ国への関心 ⇒P40～

●日本に「とても関心がある」という回答は、アメリカ 27.0%、中国 25.2%、韓国 18.2%である。ただし、「まあ関心がある」を足し合わせると、7割近くの韓国の高校生が日本に関心を示し、米中より高い肯定率となった。

●2005年の調査と比較して、日本への関心度がアメリカは増え、韓国は減少し、中国はあまり変わらないという傾向が見られた。

●アメリカへの関心度は日中韓3カ国とも高い。6年前と比較しても3カ国とも関心が高くなっている。

●中国に「とても関心がある」という回答は、アメリカ 19.5%、日本 14.3%、韓国 6.9%である。6年前と比較して、アメリカの肯定率が増えているが、韓国は減少している。日本はわずかな増加だった。

●韓国に関心が高いのは日本であり、「とても関心がある」と「まあ関心がある」を合わせて、54.5%となる。アメリカと中国は4割前後だった。また、6年前との比較では中国の減少率が目立つ。

2. 日米中韓4カ国とのかかわり ⇒P45～

●中韓高校生の大半は「日本の漫画やアニメを見る」「日本の製品をもっている」と答えている。「日本の映画や音楽を見たり聞いたりする」という回答も5割弱だったが、「日本が好き」という中国と韓国の高校生が3割を切っている。アメリカの高校生の5割弱が「日本のことが好き」と答えているが、日本の製品を使っていること以外では、特に日本のことにそれほど多く触れていない。

●2005年の調査と比較して、アニメや映画、本など日本の文化に触れることは米韓で減少し、中国で増加している。

●また、米国の映画や音楽などの文化に触れている日本高校生は中韓より少ない。中国に対しては、「中国の製品をもっている」以外では、中国の文化などに触れることは極めて少ない。6年前と比べて、日本高校生の「韓国の映画や音楽を見たり聞いたりする」の増加率が大きい。

3. 日米中韓4カ国のイメージ ⇒P50～

●日本人のイメージとして、4カ国とも多くあげられたのは「礼儀正しい」「勤勉だ」「規則を守る」だった。6年前と比べて、日本高校生の日本人像が肯定的になっている。中韓高校生の日本人像もよくなっている。

●日本高校生のアメリカ人像は主に「ユーモア」「創造性がある」「愛国心が強い」である。中国人のイメージとして日本高校生の6割弱が「自己中心的」「気性が激しい」と挙げている。6年前と比べて、日本高校生の中国人のイメージがかなり悪くなっている。日本高校生の韓国人のイメージの1位が「愛国心が強い」だが、4割を切っている。

Ⅲ 留学に関する意識

1. 外国への関心 ⇒P56～

●日本の高校生は「外国の人と話をしてみたい」が4カ国中最多で、そのほかに「外国へ旅行したい」「外国の文化や生活に興味がある」「外国の人と友だちになりたい」という思いも強いが、「外国での仕事」に対し、消極的である。海外渡航経験のある日本の高校生が6割弱で、4カ国中で最多である。

2. 留学意識

① 留学への関心 ⇒P58～

●日本の高校生は留学への関心が4カ国中最も低い。周りに留学している友達も少ない。「留学したいと思わない」という日本高校生が5割強で、4カ国中最多である。

② 留学したくない理由 ⇒P64～

●日本の高校生の場合、「自分の国が暮らしやすいから」「言葉の壁があるから」「外国で一人で生活する自信がないから」が多い。また、「面倒だから」が38.5%と、4カ国中最多である。

●米国の高校生の場合、「自分の国が暮らしやすいから」「言葉の壁があるから」「親元から離れたくないから」が理由として多い。

●中国の高校生の場合、「親元から離れたくないから」「経済的に難しいから」「自分の国が暮らしやすいから」が多い。

●韓国の高校生の場合、「言葉の壁があるから」「外国の生活になじめないから」「外国で一人で生活する自信がないから」が多い。

③ 留学したい理由 ⇒P67～

●「語学力を身につけたいから」「自分自身の視野を広げたいから」が4カ国とも多く挙げられている。「よりよい教育環境を求めたい」「その国の進んだ知識を獲得したい」「帰国後の就職が有利になる」では日本の肯定率が低く、米中韓との差が大きい。

④ 希望の留学先 ⇒P69～

●日中韓3カ国ともアメリカはダントツの1位で、イギリスは2位である。米中韓3カ国の高校生はいずれも留学したい国として日本を6位に挙げている（第1希望+第2希望+第3希望の合計。第1希望だけをみると、米国では日本がトップとなっている）。

●また、その国に留学したい理由は、「その国が好きだから」が4カ国とも1位となっている。そのほかに中国では「学問の水準が高い」も7割を超えている。日本では「学問の水準が高い」「専門分野が一流」を理由にする高校生がとても少なかった。

⑤ 留学の目的と期間 ⇒P72～

●日本の高校生が最大の目的とするのは「語学の習得」であり、「学位取得」「専門技術・資格取得」を希望する割合は低い。

●希望する留学期間については、日本は短期間指向であるが、それに対して中国と韓国では、「2年以上」を希望する割合が高い。

⑥ 留学の準備 ⇒P75～

●米国と中国では、留学希望者の2～3割が準備をしているのに対し、日本と韓国では「準備をしていない」生徒が9割以上となっている。また、中国では「留学についての情報を調べている」や「海外大学の入試問題の学習」が、他の3カ国より回答率が大幅に高い。